

愛媛県議会議長賞 レポート部門
 「近藤 篤山 ～私が見た聖人ポイント～」
 四国中央市立土居小学校 第5学年 清水 愛莉



篤山や篤山家族が、銅山でのような生活をしていた
 のが、マイナビ別子の人々に聞いてみました。



＜東の別子の会長さん＞

＜受付のお姉さん＞

他にもたくさんの方に聞いていたため、調べてもらいまし
 たが、「なかなか詳しい情報は得られませんでした。
 『もしあると、別子銅山記念館なら何かあるかも』とい
 うことで記念館にも行ってみました。



中は全ての資料
 について写真を
 撮ることができま
 せんでした…。



記念館でも、
 館長さんをはじめ、
 多くの人に協力し
 て資料をさがしても
 らいました。

「当時の別子銅山の

仕事には資料が残っているけど、生活のことは
 あまり分からないんだよ。」と話して下さいました。
 しかし、篤山が、10才から23才まで別子銅山で生活してい
 たことが書かれた本を見つけてくれました。

篤山が、32才で銅山に帰ったあと、別子銅山の思いを
 読んだ漢詩を作っているというそうです。

「そこには、高しき美しい自然、鉱山における社会
 から境の悪さとともに、意外なほどに陽気で豊かな
 な生活も描いている」

(住友の歴史 上巻)

と書かれてありました。



この階段を登ると
 記念館があるよ